

ウシオの今と未来をお伝えする

P R I S M

第46期中間報告書
(2008年4月1日～2008年9月30日)
2008年11月発行

USHIO

株主・投資家の皆さまへ



■光のものがたり

健康を支える光

■「光」テクノロジー&フロンティア

血液検査をもっと身近に。

微量血液検査システム「パナリスト®エース」



パナリスト®エース

ウシオ電機株式会社

PRISM(プリズム)は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するUSHIOの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝えする情報誌です。USHIOISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。

第46期中間報告書
Contents

光のものがたり	1
光テクノロジー&フロンティア	3
ごあいさつ	6
USHIOグループピックアップ	8
第46期中間期の事業の概況	9
数字で見るUSHIO	10
連結決算	11
株式の状況	13
会社概要	14

健康を支える光

光で、血液を検査・測定

病院での、感染症や生活習慣病の診断や治療、病気の予防を目的とした健康診断など、私たちの健康を維持・管理するためには血液検査が欠かせません。実はそこにも、「光」のテクノロジーが活躍しています。より小型で、より簡便に、より早く、より精密に、血液検査システムの進化に、光が貢献しています。

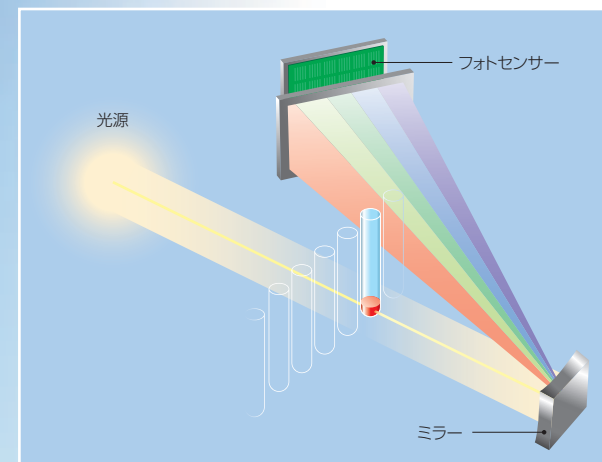
光で「測る」

水が清浄かどうかを確かめるために、グラスを光にかざしたことはありませんか？

水の中の浮遊物質が多ければ、光が散乱して濁って見えます。これが光による検査の原理です。

光センサーで、照射した光と受けた光の差(吸光度)を導くことで、濁り度を精密に測ることができます。水に溶け込んでいる物質でも、酸やアルカリなどの薬品を少量加えると固化して見えるようになるため、水質検査では、この「比濁法」が広く用いられています。

■光検査のしくみ



免疫比濁法(ラテックス免疫比濁法)

検体に試薬を入れて、抗原抗体反応を起こします。反応によってできた塊が浮遊する液に光を照射して、散乱・吸収による減衰量(吸光度)を測り、抗原・抗体量を決定します。試薬にラテックス粒子を加えると塊が大きくなるので、微量でもより精密に測定できます。

免疫機能を利用

血液検査にも「比濁法」が応用されています。血液の場合は、生体の免疫機能をうまく活用しています。私たちの身体は、細菌や毒素などの異物が侵入すると、抗原や抗体をつくって異物を取り囲んで攻撃します。これが「抗原抗体反応」と呼ばれる免疫機能です。

そこで、血清(血液の上澄み)に抗原抗体反応を促す試薬を加え、抗原・抗体の量に応じて変化する濁り度を光で測定します。試薬を変えることで、感染症や、中性脂肪や血糖の値、肝機能などを精密に測定できるのです。こうした検査法を「免疫比濁法」と呼んでいます。

原理はシンプルですが、わずかな量の抗原・抗体の変化を精密に測るのは大変です。反応性のよい試薬と合わせて、吸光度が高い波長を効率よく出す光源、高感度な光センサーなどの開発が欠かせません。

結果は迅速に

健康診断など、大量かつ項目の多い血液検査では、大型の血液自動分析装置が使われています。検体を血清と血球などに分離する装置、血清を小分けする装置、試薬の投入装置、光による検査装置、後処理装置などが一体になっています。大病院はともかく、街の病院や診療所では導入が難しく、血液分析センターなどに検体を送って調べてもらうために、結果が出るのに一両日かかることもあります。

しかし、風邪かインフルエンザか、肺炎を起こしていないか、薬のアレルギーはないかといったことは、診察時にチェックできれば理想的です。そこで、特定の項目に絞って、短時間でしかも簡便に検査ができる、小型の血液検査装置が求められていました。

それを可能にしたのが、USHIOの微量血液検査システム「バナリスト®Eース」です。

血液検査をもっと身近に。

微量血液検査システム「バナリスト®エース」

世界初の液体試薬を使用するμTAS※測定チップを使った微量血液検査システム「バナリスト®エース」。ウシオの光テクノロジーによる小型分析装置と、ロームの半導体微細加工技術を生かした測定チップ、三和化学研究所の血液検査試薬ノウハウが融合し、安全・迅速・簡単で、微量の血液による検査を実現しました。

※μTAS(マイクロタス)測定チップ:Micro Total Analysis Systemの略。数mm角のチップの中で、一連の化学操作を短時間に行うシステム。

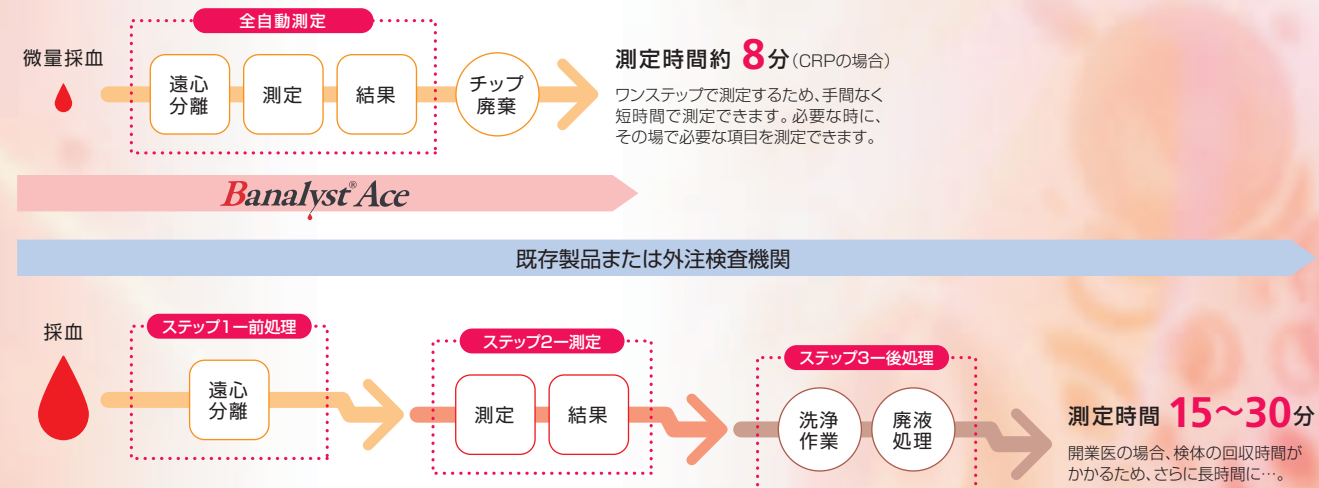


患者と医者の負担を減らし、的確・スピーディな診断を。

わずか4μℓ(100万分の4ℓ)、針先で突いた程度の微量の血液で、「バナリスト®エース」は感染症や血糖値の検査ができます。1mℓ(1000分の1ℓ)の採血が必要な大型の従来装置と比較し、実に250分の1の微量な血液で検査が可能になりました。採血が困難な患者や小さな子どもに、負担をかけることなく検査ができます。

しかも操作は、採血した検体を測定チップに挿入して、装置にセットすればスタートボタンを押すだけ。炎症のチェックなら約8分、血糖値でも約10分という速さで測定。測定後は、そのままチップを廃棄できるので安全に処理できます。また、装置はコンパクトな卓上型で、場所をとらず、医師や看護師が診察前に採血して、測定結果を見ながらそのときの状況・病状に応じた的確な診療・投薬・生活指導が可能です。

■測定の流れ(従来機器との比較)



3社の基礎技術を結集した開発の成果

「バナリスト®エース」の開発がスタートしたのは約4年前、ウシオ、ローム、三和化学研究所の3社が連携して開発・実用化を進めてきました。

μTAS測定チップには、ロームの半導体微細加工技術により最小幅100μmの微小な流体回路が刻まれています。この微小流路を血液が循環しつつ血球分離、計量、検査薬混合、廃液溜めの各工程を行なうので、微量の血液で十分測定が可能です。

卓上サイズの小型装置には、ウシオグループのテクノロジーが凝縮されています。光源には、ウシオグループのエピテックスが新たに開発した専用LED(発光ダイオード)を採用。0.6mmの狭い光路に高強度で安定した光線を照射。また、精密光学装置の技術を応用し、毎分3000回転で測定チップの遠心分離を行うと同時に、誤差数十μmという高精度での位置合わせを可能にしました。

■バナリスト®エース4つの特長

- 1 微量採血**
指先や耳たぶからの採血も可能。
- 2 簡単操作**
採血したキャピラリーを測定チップに挿入し、装置にセットすれば全自動測定。
- 3 迅速測定**
炎症マーカーなら約8分、血糖管理マーカーでも約10分で測定。ディスプレイやプリンターに結果を表示。
- 4 洗浄不要**
測定はチップ内で完結。装置の洗浄も不要。

さらに、三和化学研究所が、炎症検査試薬や血糖測定システムなどでの豊富な実績を生かして、微量血液で高精度に測定するノウハウを提供、安全・迅速・簡単に検査ができる試薬の開発に取り組みました。

試作器を医療機関などに持ちこんで現場の意見を開発にフィードバックし、改良を重ねて常に安定した測定結果が得られるようシステムとしての完成度を高めてきました。

メタボ検診への対応も

「バナリスト®エース」は、2008年10月30日から国内での販売を開始、CPR(通常濃度用：感染症、リウマチ、肺炎などの炎症程度)、CPR(低濃度用：動脈硬化、大腸がんなどの微小炎症の程度)、ヘモグロビンA1c(糖尿病の血糖管理マーカー)の3種の測定チップを発売します。微量採血による患者の負担が少ないという特長を生かして、小児科や内科医院を中心に販売を行なっています。

今後は、メタボ検診*への対応を考慮して、最大10項目の検査ができるように測定チップと試薬の開発・販売を進め、海外への展開も検討していきます。

※メタボ検診:2008年4月から始まった「特定健康診断・保険指導」。40歳以上を対象に、肥満かつ高血糖・高脂血症・高血圧症のうち2項目以上の危険因子をもつ状態をメタボリックシンドローム(内臓脂肪型肥満)と呼び、該当者や予備軍を検診で見つけて指導を行い、生活習慣病を防ぐもの。

パートナー企業より

ローム株式会社

ナノ・バイオニクス研究開発センター
次席研究員 森 敏博さん



「バナリスト®エース」には、ロームが半導体部品の製造で培った、設計・評価技術やシミュレーション技術、物作りの経験が生かされています。3社での約4年にわたる研究・開発期間を経て、世界に先駆けての発売となりました。今後もウシオさん、三和化学研究所さんと力を合わせて、医療分野に貢献してまいります。

ローム株式会社

昭和33年(1958年)設立。民生機器市場、携帯電話及び通信機器、自動車関連機器をはじめとする幅広い市場分野でシステムソリューションを展開しており、グローバルに展開している開発・営業ネットワークを通じて品質と信頼性に優れたLSIやディスクリット半導体製品を供給しています。

株式会社三和化学研究所

診断薬事業部
副部長 神谷 敏二さん



株式会社 三和化学研究所

中小病院やクリニックなどでは、操作が簡便で、検査結果が短時間で得られるコンパクトな血液検査装置が必要とされています。「バナリスト®エース」は、そのような医療現場のニーズに応えるために、開発されました。これからもわたしたちは、医療分野における経験・ノウハウを生かし、みなさまの健康づくりに、貢献してまいります。

株式会社三和化学研究所

昭和28年(1953年)設立。医薬品卸スズケンの子会社。「糖尿病治療のベストパートナー企業」として、糖尿病および糖尿病合併症分野へ経営資源を集中させ、医薬品、診断薬、医療食、保健食品製品の研究開発と製造販売を行っています。

ごあいさつ

株主の皆さまへ



代表取締役社長・CEO 菅田 史朗

厳しい環境下で、液晶製造関連製品が伸長

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、依然として高水準にある原油・素材価格が企業収益を圧迫するなか、世界経済の先行き不透明感から、個人消費が徐々に減少する傾向も見られ、景気悪化への懸念が強まりつつあります。とりわけ、米国のサブプライムローン問題に端を発する金融不安が金融・為替・株式市場などを大きく揺るがせています。

ウシオグループの関連市場を見ますと、液晶パネルメーカーの生産稼働率が回復し、露光用のリプレイスランプが底堅く推移しました。また、液晶関連の設備投資も実施されたため、液晶製造関連装置が売上を伸ばしました。

映像・画像分野では、北米の「デジタルシネマ普及促進プログラム」の第2フェーズが、米国の金融不安の影響などにより先送りとなり、デジタル映写機の販売台数は予定を下回りました。データプロ

ジェクタ市場は、新興国を中心に需要は拡大しているものの、成長スピードの減速とユーザーニーズの低価格化が進み、価格競争が激化傾向にあります。ウシオのデータプロジェクタ用ランプは、比較的下落幅の小さい、高価格帯のデータプロジェクタ向けを主体としています。少なからず市場の低価格化の影響を受けました。

こうした厳しい環境下にあつて、ウシオグループは、将来に向けた新技術・新製品開発の積極的な投資を続け、生産性の向上、製造コストの低減、グローバルな販売体制の整備・拡充などに、グループをあげて取り組んできました。

これらの結果、2009年3月期第2四半期連結累計期間における業績は、売上高68,058百万円(前年同期比8.5%減)、営業利益8,054百万円(同25.1%減)、経常利益9,879百万円(同24.5%減)、四半期純利益5,660百万円(同33.6%減)を計上しました。

**生産性の向上とコストダウンで収益を確保し、
新分野の開拓・新事業の強化を推進していきます**

今回の業績につきましては、全般的に需要減退の影響から、売上は予想を下回りました。しかし、円ドル為替レートが想定の100円より円安に推移したことや、御殿場事業所の新生産棟(G3)の稼働による液晶関連製造装置の生産性向上、海外生産強化によるデータプロジェクタ用ランプおよびOA用ランプのコストダウンなどにより、営業利益や経常利益は、期初予想の水準を達成いたしました。

製品面では、露光装置「UXシリーズ」が、圧力センサ、水晶振動子など、新たな用途を開拓し、また、半導体パッケージングの封止工程でも活用されつつあります。

映像・画像関連では、ノンシネマ分野で多様な方面への展開が見られました。米国NASDAQ市場の大型ビデオウォールや、中国・北京の「鳥の巣スタジアム」での大規模なデジタル映像システムは、大きな話題となりました。(P8「ウシオグループトピックス」をご参照ください)

シネマ分野では、デジタル映写機が、北米のみならず、欧州や中国、インド、韓国、日本でも普及しつつあります。米国では、デジタル配信会社アクセスITによる「デジタルシネマ普及促進プログラム」(約10,000スクリーン)に加えて、大手配給会社3社による同様のプロジェクト(約15,000スクリーン)の検討が進められています。

新規事業では、医療分野において大きな進展が見られました。白斑、乾癬、アトピー性皮膚炎などを紫外線で治療する「セラビーム®UV308」の発売に続き、1滴の血液で炎症マーカーや糖尿病

管理マーカーを数分で測定する、微量血液検査システム「バナリスト®エース」を発売しました。(P.3「光テクノロジー&フロンティア」をご参照ください)

また、『中期ビジョン』で重点戦略目標に掲げた「最先端露光事業(EUV)開発強化」についても、積極的に研究開発投資を継続し、5月にはドイツのエクストリーム社を完全グループ会社化しました。

**慎重に事業環境を見極め、
事業基盤のさらなる強化を図っていきます**

第3四半期に入って、金融不安などにより為替・株式市場が下落、乱高下するなど、世界経済の悪化傾向はますます顕著になりつつあります。日本経済においても、外需の後退、個人消費の低迷など、景気の減速が避けられない状況になりつつあります。

2009年3月期下期につきましては、慎重にこのような環境変化を見極め、前述の諸施策を積極的に推進し、グループ全体の事業基盤を強化してまいります。

また、ウシオ電機では、株主の皆さまへの還元の意味を含めまして、第2四半期に自己株式の取得を行っており、今後も環境を見極め、機動的に実施してまいります。

株主の皆さまには、一層のご理解とご支援を、心からお願い申し上げます。

ウシオグループトピックス

**『鳥の巣』スタジアムで映像パフォーマンス
～クリスティ・デジタル・システムズ～**

この夏、世界中が熱く注目した中国・北京の『鳥の巣』スタジアム。なかでも開会式、閉会式のパフォーマンスは、8億4,000万人を超える世界の人々を魅了しました。これらを効果的に演出したのが「映像」でした。世界最大の楕円状スクリーンに映し出された孔子の名言、空中に浮遊する巨大な地球儀の球面映像、センターフィールドにダイナミックに繰り広げられた映像グラフィックやムービングスクリーンなど、これらの映像のすべてをクリスティ・デジタル・システムズ(CDS)が担当しました。使用された大型デジタルプロジェクタは合計147台。CDSは、デジタル映像テクノロジーを駆使して、すべてのプロジェクターを正確に起動・制御し、テレビ中継に耐える鮮明映像の確保、再生ミスの防止など、難易度の高い数々の課題をクリアし、大役を果たしました。



開会式

**ハイテク光源で省エネ・サンマ漁を実現
～ウシオライティング～**

重油価格が高騰する中で、燃料費の約30%～60%を照明用に費やすサンマ漁では、“集魚灯の省エネ化”が大きな課題となっていました。ウシオライティングは、従来の白熱灯と比べ、最大約9割の燃料費が低減できる集魚灯「ユウビーム・エコ」を開発し、この8月から販売しました。「ユウビーム・エコ」は、発光効率が高く長寿命のメタルハライドランプをベースに、瞬時点灯、光の高指向性などを実現。水産庁の「燃油高騰水産業緊急対策」にも対応することから、発売以来、高い注目を集めています。ウシオライティングでは、このハイテク光源のイカ釣漁への展開や、海外への販売も予定しています。



「ユウビーム・エコ」

日本初のフルデジタル・ネットワーク・シアターの誕生

～ジーベックス～

この7月、10スクリーン(全2,237席)をもつ都心最大級のシネコン「新宿ピカデリー」が、東京・新宿にオープンしました。全館クリスティ・デジタル・システムズ(CDS)の映写システムが採用されました。これは、CDSのデジタル映像テクノロジーの信頼性と、ジーベックス(シネマシステムの国内版社)のきめ細かな営業活動やテクニカルサポート体制が高く評価されて、実現したものです。また、すべてのデジタル映写機にそれぞれサーバを設置。これによって新宿ピカデリーは、日本初の“フルデジタル・ネットワーク・シアター”となりました。将来的には、全スクリーンにおいて、映画・予告編・広告などの上映が、パソコンひとつで管理や変更ができるシアター・マネジメント・システム(TMS)の導入も予定しています。



CP2000ZX

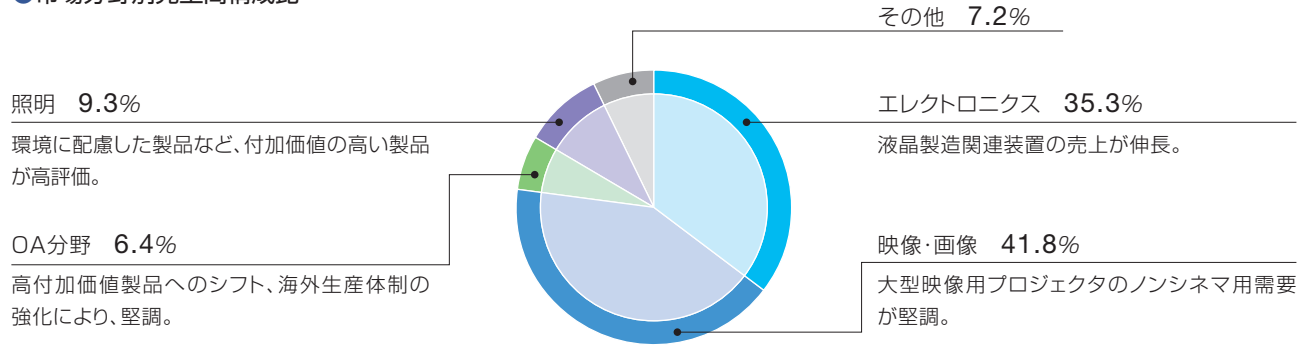
**中国で販売・マーケティング力を拡充
～ウシオ深圳～**

ウシオの主要な中国市場は、上海・北京を中心とした「華東・華北」と、香港・深圳・広州を中心とした「華南」です。なかでも華南地域は、半導体や液晶、プリント基板、電子部品関連のユーザーが急増し、ウシオにとって、需要の掘り起しや新市場開拓の大きなチャンスになりつつありました。この6月、ウシオは、この「華南」と、今後発展が期待される成都・重慶を中心とした「西南」をカバーする販売拠点として、新たにウシオ深圳を発足させました。これによって中国市場は、これまでのウシオ上海とウシオ深圳の2社で分担し、これにウシオ台湾・ウシオ韓国が、戦略部門としてサポートしていく体制となりました。



ウシオ深圳社屋外観

●市場分野別売上高構成比

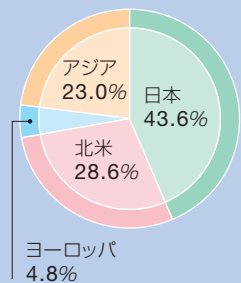


●第46期の業績見通し

売上高 1,520億円 営業利益 205億円 経常利益 245億円 当期純利益 160億円 (連結ベース)
※上記の業績見通しは、今後の状況変化によって、数字が異なる場合があることをご了承願います。

所在地別の業績

所在地別売上高構成比



日本

設備投資の堅調な推移により液晶製造関連装置の出荷が増加しましたが、映像・画像事業および産業機械の需要が低調だったため、売上高は対前年同期比4.6%減の354億4千3百万円、営業利益は対前年同期比20.0%減の44億8千5百万円となりました。

北米

デジタル映写機の出荷台数が減少し、サブプライムローンを発端とする金融危機により景気減速の影響を受け、一般照明用ランプの需要が減少、その結果、売上高は対前年同期比15.7%減の232億6千2百万円、営業利益は対前年同期比58.6%減の5億9千1百万円にとどまりました。

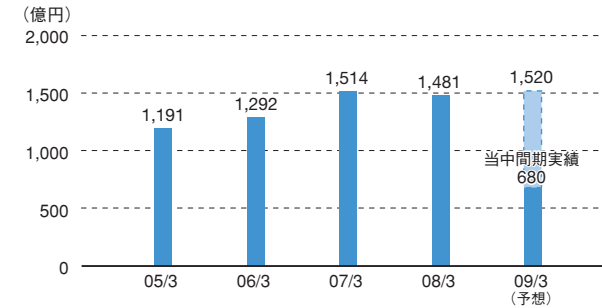
ヨーロッパ

一般照明用および特殊照明用ランプの需要が減少し、売上高は対前年同期比1.6%の38億6千4百万円となりました。

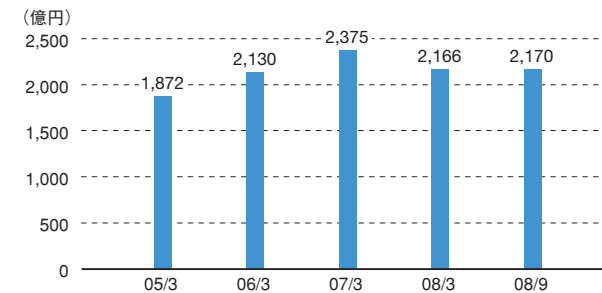
アジア

液晶製造関連装置の需要が堅調に推移したことに加え、映像・画像事業の売上高が増加しました。一方ではデータプロジェクト用高輝度ランプの価格低下により売上高は、対前年同期比1.0%減の187億4千2百万円、営業利益は対前年同期比5.2%減の29億9千2百万円となりました。

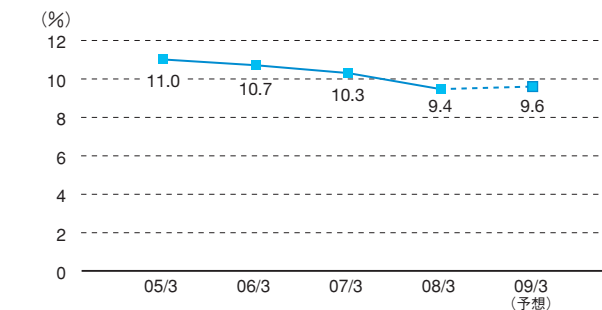
●連結売上高



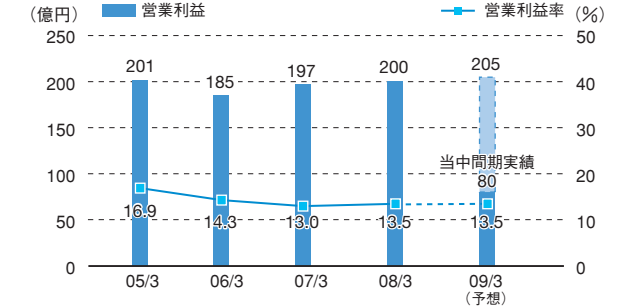
●連結総資産



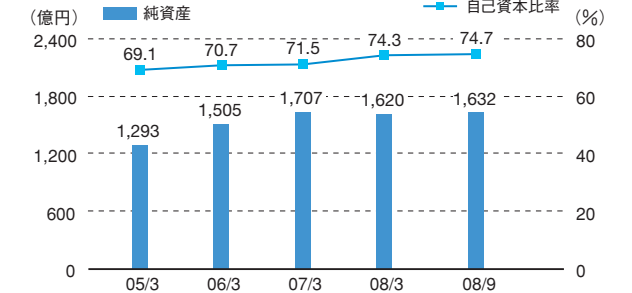
●連結自己資本利益率 (ROE)



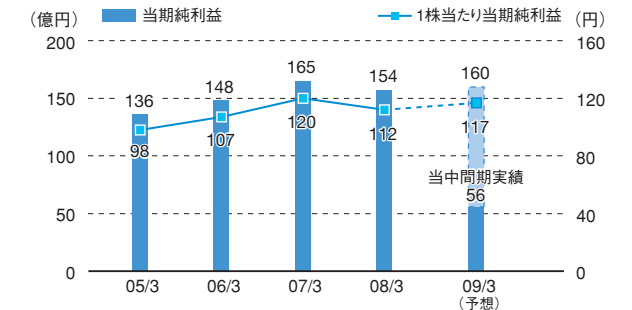
●連結営業利益／営業利益率



●連結純資産／自己資本比率



●連結当期純利益／1株当たり当期純利益



※数字はすべて表示数値未満の位を切り捨てて記載しております。

●中間貸借対照表(連結)

科 目	第46期中間 (2008.9.30現在)	第45期 (2008.3.31現在)
(資産の部)		
流動資産	114,110	111,914
現金および預金	29,988	31,412
受取手形および売掛金	33,506	37,074
有価証券	5,748	2,587
たな卸資産	33,414	29,951
その他	11,451	10,889
固定資産	102,929	104,744
有形固定資産	38,574	38,227
建物および構築物	18,007	18,334
機械装置および運搬具	5,855	6,253
土地	8,871	8,849
その他	5,839	4,790
無形固定資産	2,905	2,994
投資その他の資産	61,449	63,522
投資有価証券	57,224	59,521
その他	4,224	4,001
資 産 合 計	217,039	216,659

(単位:百万円)

科 目	第46期中間 (2008.9.30現在)	第45期 (2008.3.31現在)
(負債の部)		
流動負債	37,116	38,159
支払手形および買掛金	15,096	15,214
短期借入金	7,225	8,727
その他	14,764	14,218
(1年以内含む)		
固定負債	16,651	16,407
長期借入金	3,970	2,962
繰延税金負債	9,178	10,146
その他	3,502	3,298
負 債 合 計	53,768	54,567
(純資産の部)		
株主資本	149,050	148,122
資本金	19,556	19,556
資本剰余金	28,371	28,371
利益剰余金	107,703	105,323
自己株式	△6,581	△5,127
評価・換算差額	13,036	12,837
その他有価証券評価差額金	16,371	17,150
為替換算調整勘定	△3,335	△4,313
少数株主持分	1,184	1,132
純 資 産 合 計	163,270	162,092
負債および純資産合計	217,039	216,659

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

●中間損益計算書(連結)

科 目	第46期中間 (2008.4.1~2008.9.30)	第45期中間 (2007.4.1~2007.9.30)
売上高	68,058	74,362
売上原価	43,776	48,448
売上総利益	24,281	25,914
販売費および一般管理費	16,226	15,159
営業利益	8,054	10,754
営業外収益	2,846	3,057
営業外費用	1,021	728
経常利益	9,879	13,083
特別利益	2	0
特別損失	1,584	879
税金等調整前中間純利益	8,296	12,203
法人税等	2,411	3,585
少数株主利益	225	97
中間純利益	5,660	8,521

(単位:百万円)

●中間キャッシュ・フロー計算書(連結)

科 目	第46期中間 (2008.4.1~2008.9.30)	第45期中間 (2007.4.1~2007.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,661	8,865
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,927	△6,326
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,330	1,703
現金および現金同等物に係る換算差額	△15	△192
現金および現金同等物の増加額(又は減少額)	1,388	4,051
現金および現金同等物の期首残高	27,700	25,122
現金および現金同等物の中間期末残高	29,089	29,174

(単位:百万円)

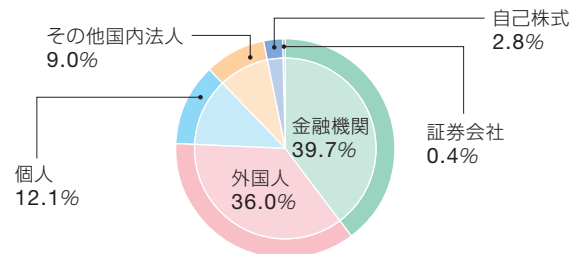
発行済株式総数..... 139,628,721株
株主数..... 14,902名

●大株主の状況 (200万株以上)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,381	6.71
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,820	4.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,376	4.56
朝日生命保険相互会社	4,477	3.20
ニッセイ同和損害保険株式会社	3,964	2.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	3,952	2.83
株式会社りそな銀行	3,616	2.58
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 牛尾治朗	3,295 3,201	2.36 2.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (りそな信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口)	3,200	2.29
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	2,928	2.09
アールピーシー テクニクス インベスター サービスズ トラスト・ロンドン レンディング アカウト	2,846	2.03
財団法人ウシオ育英文化財団	2,400	1.71
ノーザントラスト カンパニー(エイブイエフシー)サブアカウント アメリカンクライアント	2,256	1.61
メロン バンク エヌイー アズ エージェント フォー イツツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ベンション	2,001	1.43

※上記のほか、当社が所有している自己株式3,859千株があります。
※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。
また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

●株式の分布状況



設立/1964年3月

資本金/19,556,326,316円

●役員 (2008年9月30日現在)

代表取締役会長	牛尾 治朗
取締役副会長	田中 昭洋
代表取締役社長	菅田 史朗
取締役	後藤 学
取締役	大島 誠司
取締役	多木 正
取締役	牛尾 志朗
取締役	多田龍太郎
取締役	伴野 裕明
常勤監査役	四分一 直
常勤監査役	中一 進
常勤監査役(社外)	物江 理
監査役(社外)	服部 秀一
監査役(社外)	麻生 紘二

●従業員数 (2008年9月30日現在)

ウシオ電機本体	1,738名
国内グループ計	492名
海外グループ計	2,544名
合計	4,774名

●事業所一覧 (2008年9月30日現在)

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
横浜事業所	神奈川県横浜市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
東京営業本部	東京都千代田区
大阪支店	大阪市淀川区

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社	
兵庫ウシオライティング株式会社	
筑波ウシオ電機株式会社	
株式会社ジーベックス	
株式会社ウシオスペース	
ギガフオン株式会社	
日本電子技術株式会社	
株式会社エビテックス	他5社

海外グループ会社

開発・製造

- <北米>
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.
- VISTA CONTROLS SYSTEMS, CORP.
- <欧州>
- BLV Licht-und Vakuumtechnik GmbH
- XTREME technologies GmbH
- <アジア>
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.

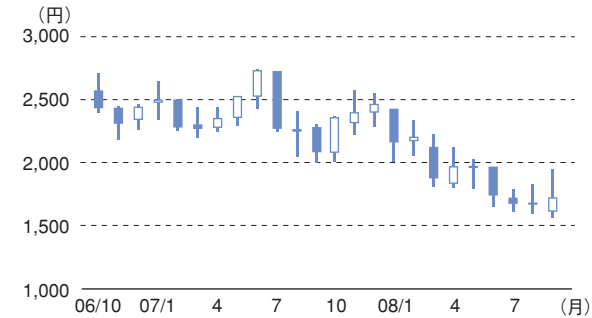
販売

- <北米>
- USHIO AMERICA, INC.
- USHIO CANADA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC.
- <欧州>
- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO U.K., LTD.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO FRANCE S.A.R.L.
- <アジア>
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO SINGAPORE PTE LTD.
- USHIO LIGHTING (HONG KONG) CO.,LTD.
- USHIO SHANGHAI, INC.

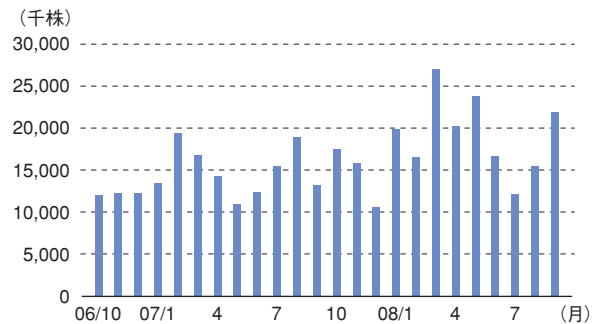
他11社

●株価の動き/株式売買高

■株価の動き



■株式売買高



株主メモ

決算期	3月31日	株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
定時株主総会 基準日	毎年6月 3月31日	同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
利益配当金受領 株主確定日	3月31日 なお、中間配当制度は採用しておりません。	同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。		
1単元の株式数	100株		
株式銘柄コード	6925		

株券電子化実施後の手続のお申出先について

平成21年1月5日から、上場会社の株券電子化が実施される予定です。これに伴い、以下のとおり手続のお申出先が変更となります。

- 株券電子化後の未払配当金の支払のお申出先
これまでどおり、株主名簿管理人にお申出ください。
- 株券電子化後の住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先
 - 証券保管振替機構(ほふり)に株券を預けられている株主さま：お取引証券会社等
 - 証券保管振替機構(ほふり)に株券を預けられていない株主さま：特別口座管理機関である中央三井信託銀行
お問い合わせ先は、上記株主名簿管理人と同じです。

株券電子化実施前後の単元未満株式の買取請求のお取扱いについて

ほふりに株券を預けられていない株主さまに関しまして、以下の期間お取扱いを変更させていただきます。

- 平成20年12月25日から平成21年1月4日までに受付したものの買取代金の支払は、平成21年1月26日とさせていただきます。
- 平成21年1月5日から平成21年1月25日までの間、単元未満株式の買取請求の受付を停止します。

なお、ほふりに株券を預けられている株主さまに関しまして、株券電子化直前に単元未満株式の買取請求の取次停止期間が設けられますが、詳細はお取引証券会社等にご確認ください。

株券電子化実施後の配当金受取方法のお取扱いについて

株券電子化により、従来の配当金振込口座のご指定方法に加えて、あらかじめ登録した一つの預金口座で株主さまの保有しているすべての銘柄の配当金のお受取りや、証券会社の口座でも配当金のお受取りが可能となります。確実に配当金をお受取りいただくためにも、これらの振込みによる配当金のお受取りをお勧めします。詳しくはお取引証券会社等にお問合せください。